



アトリウムを西側から望む



キャンパス南西鳥瞰



アトリウムの制震ダンパー



ものづくりセンターを南東から望む



縦型蓄熱槽



再帰反射フィルムを装着したガラス



学生ラウンジを望む



屋上庭園を望む

## ■計画の特徴

東京電機大学は、平成 24 年 1 月の東京千住キャンパス第 1 期に続き、この度、平成 29 年 1 月に第 2 期計画 5 号館を竣工しました。5 号館は、第 1 期からの方針の踏襲にとどまらず、第 1 期の運用経験を基に、さらに発展、進化させた計画としています。

### 1. 都市景観への配慮

- ①ランドスケープ：第 1 期に引続き、緑豊かで開放的な計画としました。
- ②ボリューム：周辺街区に近い 5 号館では、高層部を 1 号館より低く抑えた上で、キャンパスの中央に寄せました。
- ③外観：第 1 期の仕様に、次の様なテクスチャーを付加した 5 号館の外装は、第 1 期と複合したヒューマンな近景を創出します。

東西面のガラス面は、周囲の風景を映し、白さを増したバックパネルが奥行きを感じさせます。

ご近隣へのプライバシーに配慮した PC 版は表面に種石の質感を付加しました。

### 2. 北千住東口地区のまちづくりの核となる位置付け

- ①電大通りに展開する現代の「アゴラ」と、その進化：電大通りから学園西通りへ通り抜け可能な「アトリウム（吹抜け空間）」を計画し、第 1 期からの電大通りを教育・地域連携の軸とする現代の「アゴラ」が、学園西通りへ到達、完結しました。「アトリウム」に面して 3 層吹抜け空間をもつ「ものづくりセンター」を配し、学内の授業、実験だけでなく近隣児童への教育・啓蒙を踏まえた「理科教室」等の開催も計画します。

- ②2 つの業務施設：学園西通りの賑わいへの貢献のため、地区計画に定められた業務施設（建物西側に専用出入口をもつ学外経営の会員制スポーツクラブと、そのもとで運営される幼児から就学児童までの学習支援施設）を導入しました。

### 3. 次の 100 年を見据える先進的な技術への取組みと、見える化

- ①災害に強い建築：「アトリウム」の吹抜けを横切る制震構造は、第 1 期同様に高い耐震・制震性を備えます。
- ②縦型蓄熱槽：「アトリウム」の吹抜け越しに設置される縦型蓄熱槽は第 1 期同様に、日々の省エネルギーだけでなく、災害時にはトイレ用水として利用します。
- ③南と西の透明ガラス面には、太陽からの近赤外線（熱線）を上方に反射し、都市のヒートアイランド化防止に貢献する、

新技術の「プリズム効果をもつ再帰反射フィルム」を装着しています。

- 4. キャンパス生活のアメニティーの充足  
大学院生・学生の増加に対応するため、館内にミニコンビニが併設された学生ラウンジ、屋上庭園等のアメニティーを充足させました。

- 5. 建物毎のテーマカラー  
第 1 期の棟別カラーの「1 号館／ブルー（青）、2 号館／レッド（赤）、3 号館／グリーン（緑）、4 号館／イエロー（黄）」に対し、5 号館はパープル（紫）としました。